

日刊 動労千葉

84. 1. 18
No. 1541

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二三五〇六（公衆）〇四七二二七二〇七

旗びらき

八四年を、「三里塚―国鉄」決戦勝利の年としよう

主催者あしやう

水野副委員長



（前号（第一五〇号）よりのつづき）

すでに明らかな通り、今日の臨調―行革攻撃は、単に「国鉄財政の赤字を何とかしよう」とか、「安上りの政府をつくろう」というものでは決してありません。戦後帝国主義支配体制の世界的危機の中にあつて、一九八五年度には百兆円をこえる赤字国債をかかえこのままでは破局的な財政危機の克服はおろか、日本帝国主義の支配体制そのものが崩壊する危機的状况においてめられた敵階級が、体制の存亡をかけた脱出の道を侵略と戦争の道にもとめたための国家的改造をおこなおうというの、この「行革」の本質であるうかと思えます。中曽根のいう「戦後政治の総決算」というものは、まさしくそういう意味であります。

今、職場では大合理化が進んでいます。これと合わせて、リボン・ワッペン・ステッカーなどの規制、現協制度の廃止・昇給協定の改悪がかけられ、国鉄労働運動を職場生産点から解体する攻撃が強まっています。臨調がいつているように、「職場規律の厳正は国鉄再建の前提」ばかりでなく、国鉄労働運動を解体することは戦後労働運動を一掃し軍事大国化にみあった「国家改造」を行うための必須条件であるわけです。この国鉄労働運動解体―総評解体―全民労協への合流、さらには労働運動の産業報国会化への道を狙っていることは明らかであります。

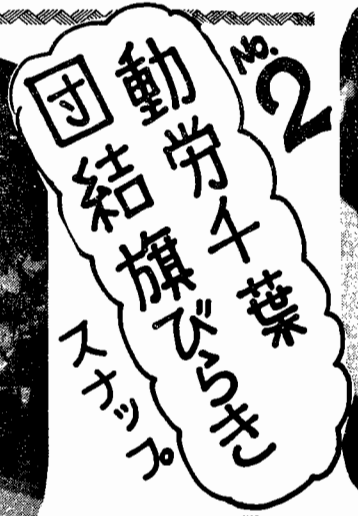
労働革マルはこうした敵の動向をすばやくかぎわけ、いち早く政府支配者・国鉄当局の犬となることを通して卑屈に生きのびようとしておりますが、これが全労働者階級への敵対と自らの破滅の道でしかないとを思い知らさなければなりません。そして、国鉄労働運動はおろか、一切の戦線から彼らを放逐しなければなりません。

一方、三里塚闘争は、今まさに決戦のときを迎えています。関西新空港建設に対する田中角栄の「軍事併用すればすぐできる」という発言や、米軍機の夜間発着訓練用としての三宅島の空港拡張整備の問題をみるまでもなく、三里塚空港の軍事利用の魂胆はみえみえであります。同時に軍事大国化への国家改造として「有事」を含めて全空港体系の整備をするという必要に迫られて、敵側ののつぎぎならない攻撃として三里塚二期着工攻撃は切迫しています。

三里塚芝山連合空港反対同盟は、昨年三月八日、同盟内のウミともいうべき条件派・脱落派をたたきだし、「空港絶対反対・農地死守」「一切の話し合い拒否・実力闘争」の十八年間の闘いの原則を堅持し、不拔の体制を築いて、二期決戦に突入しようとしています。全国の反戦反基地住民闘争は、三里塚を自らの闘いとして闘いぬき、三里塚の勝利をもって反動中曽根をうち倒し情勢の決定的な転換をかちとるために全力で奮闘しています。われわれ動労千葉も「八一・三ジェット闘争」の地平にたつて、労働連帯の旗をますます高くかかげて、全国の国鉄労働者の決起と結合して、文字通り「車の両輪」として、かつてない最大動員の体制をもって二期決戦を断固闘いぬく決意であります。三・二五に全力結集しようではありませんか。（裏に続く）



カニ部のアトラクションに花をぞえた津田沼支部平野君を中心とした「ミニナイトパレード」(深夜の騒音グループ)がルーゲラス...約30分にわたって会場を盛り上げてくれた。



カニ部は恒例の各支部対抗新春歌謡大会。各支部からの2名の歌手。最前列の真剣な顔の人達が審査員。

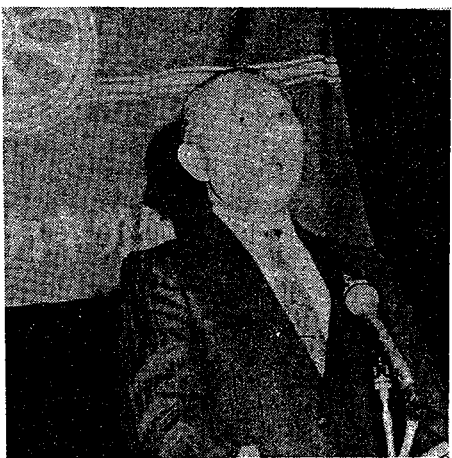
さて、年があけてわれわれはいよいよ動力車乗務員の勤務制度の大合理化に正面から対決する決定的なときを迎えています。この動乗勤改悪は、つづく検修大合理化―貨物全廃をもくろむ「六〇・三」ダイヤ改悪をはじめとして、「国鉄二〇万人台体制」ともいわれる大合理化攻撃そのものであります。従来の合理化では「過剰」要員は自然退職等での減をまつというような面もあったわけですが、今度の合理化攻撃は、出向あるいは指名解雇等も含め、まさに「生首」とばすというものです。すでにこの間、合理化によってうみ出された要員が「プラス10」運動にかり出されたり、あるいは学園に入れ

られて「マル生」教育に動員されているような局があるように、今後の合理化が「生首」とばし、一切の権利を剥奪し労働強化をおしつけつつ、組織破壊攻撃と一体のものとして職場を直撃することはまちがいありません。われわれは本当に性根をすえて、自らの生活、職場を守るために決起しなければなりません。すでに戦端はひらかれています。今、全国各地の職場生産点で不屈の反撃が闘われています。われわれはこれらの戦闘的国鉄労働者の仲間との連帯をさらに大胆に深め拡大し、職場生産点から労働者の敵「動労本部」革マルや鉄労マル生分子などを粉碎・放

逐して不拔の闘う砦を築きあげるとともに、全国各地の住民闘争と連帯し、その中心軸である三里塚闘争に勝利し、階級情勢を實力できりひらいていく闘いに確信をもって決起しようではありませんか。動労千葉は、昨年第八回大会で路線化された「三里塚―国鉄を基軸に、反動中曽根体制と対決する労働運動」路線に深い確信をもつとともに、この路線の全国的拡大にむけた闘いへと、本年も全力をあげてまい進する決意です。本日の旗びらきが、こうした闘いへの出陣式として成功をかちとることを願って、主催者を代表いたしましたのごあいさつといたします。

各界からの連帯のあいさつ

「連敗」春闘が破る八四年を（千葉県労連・清水事務局長）

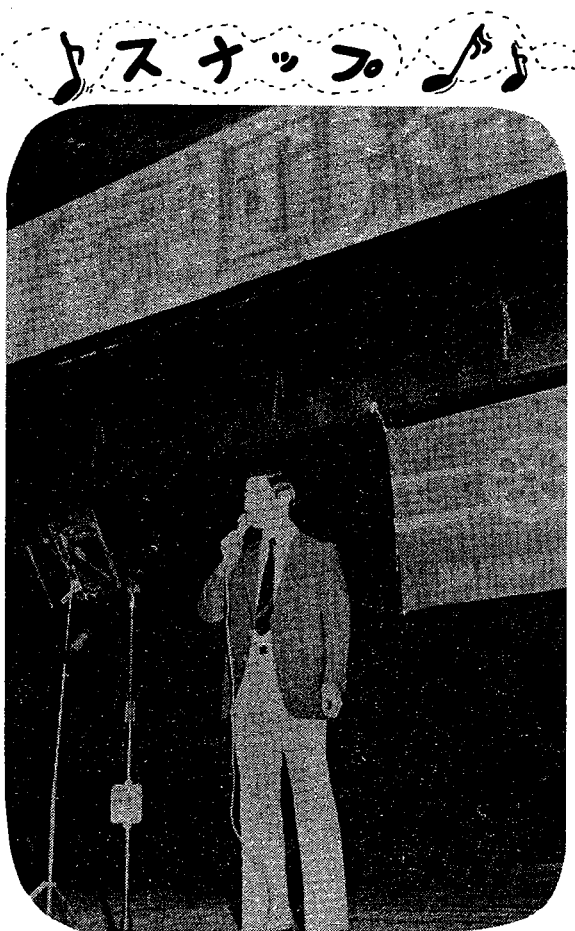


皆さん明けましておめでとうございます。今年も大変厳しい中でこれから春闘をむかえます。ここ数年、春闘は連敗できたわけですが、今年は「保革伯仲」状況、それに「税金、保険、年金」問題等生活圧迫への国民の怒りが充満していること等の中で、いままでと今一つちがった有利な闘いをきりひらくこともできると思います。労働組合が本当に真剣にこれを闘うなら広範

な動労国民がこれに連帯して運動を展開させることができると思います。私はいつも動労千葉の旗びらきに出席するのを大変たのしみにかけています。昨今、旗をしまいつばなしにして、お酒の方だけひらいたらやうような組合もよく見かけることもありますが、動

労千葉は旗を降さず、いつ見ても闘いの旗をひらいて、強固な意志結集をしながら進んでおられる。どうか、今年こそ労働者の闘いで国民的な運動の高揚をきりひらくような力強い春闘を闘い、輝しい八四年をかちとろうではありませんか。

（以下、次号につづく）



オII部、各支部歌謡大会で、美事優勝に輝いた成田支部の鈴木三男さん。曲目は、「東流れ唄」。